



カラダの中から健康に。

みんなのカラダづくりを叶える
宮崎の農産物、
Karada Good Miyazaki

カラダにグッドなおいしい食材を
毎日の食卓で、
どうぞお召し上がりください。

※「みやざきの食と農を考える県民会議」は、みやざきブランド推進本部と連携し、健康・カラダづくりに
役立つ農産物などの魅力をお伝えする「Karada Good Miyazaki」を推進します。

✕✕ みやざきの食と農を考える県民会議事務局 連絡先 ✕✕

本 部

宮 崎 県 農 政 水 産 部 農 業 流 通 プ ラ ン ド 課 TEL (0985)26-7132

地 域 支 部

中 部 地 域 支 部	中 部 農 林 振 興 局	地 域 農 政 企 画 課	TEL (0985)26-7279
南 那 珂 地 域 支 部	南 那 珂 農 林 振 興 局	農 政 水 産 企 画 課	TEL (0987)23-4312
北 諸 県 地 域 支 部	北 諸 県 農 林 振 興 局	地 域 農 政 企 画 課	TEL (0986)23-4507
西 諸 県 地 域 支 部	西 諸 県 農 林 振 興 局	地 域 農 政 企 画 課	TEL (0984)23-3165
児 湯 地 域 支 部	児 湯 農 林 振 興 局	地 域 農 政 企 画 課	TEL (0983)22-1364
東 臼 杵 地 域 支 部	東 臼 杵 農 林 振 興 局	農 政 水 産 企 画 課	TEL (0982)32-6135
西 臼 杵 地 域 支 部	西 臼 杵 支 庁	農 政 水 産 課	TEL (0982)72-2108

みやざきの食と農を考える県民会議

🔍 検 索



みやざきの
食と農を考える

県民会議 だより



カラダの中から健康に。

みやざきの食と農を考える県民会議とは

1 設立趣意書

私たちは、今、生きていく上で、地球全体を取り巻く食料危機への不安、環境問題などを前にし、大きな転換期に立たされています。

中でも、食料は、私たちの生命を育む最も大切なものであります。また、食料は、農林水産業と県民をつなぐ絆であり、架け橋でもあります。

最近の私たちの食生活は「飽食」ともいわれるほど豊かになる一方で、栄養素摂取の過不足や栄養バランスの崩れといった栄養面での問題が生じ、生活習慣病の増加等が懸念されております。

また、同時に欠食や孤食などの問題が顕在し、子どもたちの健やかな心身の発達面に及ぼす影響も危惧されております。

さらに、こうした状況に加えて、輸入農産物の増大や遺伝子組み換え食品に対する不安など、新たな問題も生じており、食の安全性について県民の関心がより一層高まってきております。

私たちのふるさと宮崎は、「太陽と緑の国」と呼ばれるように、温暖な気候のもと、緑豊かな県土と日向灘を北上する黒潮の恵みを受け豊富な農林水産物を産出する食の宝庫です。

この豊かな食材を県内で消費するいわゆる地産地消運動を展開する中で、健全な食生活の普及・定着を図るとともに、農林水産業の重要性や素晴らしさを県民一人ひとりが自らの問題として、今を見直し、考え、そして、実践していくよう食と農林水産業に関する幅広い関係者が共に集い、活動することを趣旨として、私たちは「みやざきの食と農を考える県民会議」を設立することにしました。

(平成13年7月23日)

2 構成

みやざきの食と農を考える県民会議の趣旨に賛同する機関と団体等で構成します。

会 員 数 119〔農林漁業、加工・製造業者、流通・販売業者、行政等の関係団体〕(令和7年3月末現在)

会 長 宮崎県知事

本 部 宮崎県農政水産部農業流通ブランド課

地域支部 西臼杵支庁農政水産課及び各農林振興局地域農政企画課・農政水産企画課



近年は、世界情勢の変化による食料価格の高騰などにより、食料安全保障の重要性が再認識されるとともに、県産農畜水産物への期待が高まっています。

こうした中、みやざきの食と農を考える県民会議(以下「県民会議」)では、新しい時代に適応しながら、県民の健全な食生活の普及・定着に寄与するとともに、本県の豊かな農林水産物の魅力発信及び消費拡大に努めていくこととしています。

本誌では、令和6年度の活動について紹介します。

なお、令和6年5月27日(火)に予定していました総会につきましては、急な荒天の影響により、中止としました。



宮崎県食育活動功労者表彰

長年、県内の食育・地産地消推進の牽引役として、功労のあった食育ティーチャー及び団体を表彰しました。

表彰式は、総会の中止に伴い、今年度は、「Karada Good Miyazakiフェスタ2024」において開催しました。

日 時 令和6年11月3日(日)

会 場 JA・AZM(AZMホール)

受賞者 3個人・1団体

- ①土屋 好子 氏(日南市) ②石川 佳代 氏(延岡市)
③佐藤 有美 氏(高千穂町) ④JAはまゆう青年部(日南市)



地域支部活動と食育ティーチャー

Kenminkaigi
dayori

県内7つの地域支部（中部地域支部、南那珂地域支部、北諸県地域支部、西諸県地域支部、児湯地域支部、東臼杵地域支部、西臼杵地域支部）では、食育ティーチャー等と連携しながら、地域に根ざした食育・地産地消活動を実践しました。

地域支部会議の開催

各地域支部では、年間活動計画の検討や会員間の連携強化を図りました。

南那珂
地域支部



東臼杵
地域支部



食育ティーチャーとは？

県民会議では、食育・地産地消の推進に取り組む方を「食育ティーチャー」として登録しています。栄養士や野菜ソムリエ、食生活改善推進員などの方々が活動していますが、専門的な資格がなくても知識や経験、技術を生かして活躍している方もおり、令和7年3月末現在で134名が登録されています。

食育ティーチャーが、地産地消や郷土料理の普及、啓発を目的とした食育活動をする際、食材費や紙皿等の消耗品等、活動に必要な経費を県民会議から支援しています。

活動の様子は、右記二次元コードから確認できますので、ぜひご確認ください。

随時登録を受け付けていますので、興味のある方は県民会議事務局までお問合せください。



食育ティーチャー
活動紹介ページ



▲食育ティーチャー登録証



食育ティーチャーによる 食育・地産地消講座

食育ティーチャーと連携しながら、県産食材を活用してみやぎきの食の魅力を発信しました。

食育ティーチャーの活動

食文化継承・郷土料理教室、地場産農畜水産物の利用推進、子育て世代等の幅広い世代を対象とした食育活動など、県民のライフステージに応じた様々な食育・地産地消活動を実施しました。

●食文化継承・郷土料理教室



●地場産農畜水産物の利用推進



●子育て世代等幅広い世代を対象とした食育活動



●地域に根ざした食育・地産地消の啓発（壁新聞コンクール）



小学生向け食育講座「味覚の授業」®

Kenminkaigi
dayori

平成27年度より取組をスタートさせた「味覚の授業」®は10年目を迎え、令和6年度は、本県で活躍するシェフや生産者等による授業を県内小学校65校(約2,300名)で実施しました。



「味覚の授業」®の様子

「味覚の授業」®とは

「味覚の授業」®は、小学生を対象に味の基本となる五味(塩味、酸味、苦味、甘味、うまみ)について、実際に塩や酢、だし等の匂いを嗅いだり、食感を確かめたり、味わいながら、食べることや味わうことの楽しみについて、子どもたちの理解と関心を促す取組です。

取組開始から令和6年度までの10年の取組で、述べ約17,500名の児童に授業を行いました。



令和6年度「味覚の授業」®実施校

実施校 一覧

中部：宮崎、大淀、宮崎東、木花、生目台東、那珂、高岡、清武、大久保、綾
南那珂：飫肥、吾田、油津、大窪、南郷、細田、大堂津、潟上、北郷、酒谷、東郷、有明、秋山、日南くろしお支援学校
北諸県：明道、大王、祝吉、菓子野、乙房、山之口、麓、丸野、高城、高崎、木之川内、白雲
西諸県：南、須木、紙屋、飯野、小林こすもす支援学校
児湯：妻南、三納、三財、高鍋西、村所、川南、通山、多賀、山本
東臼杵：北川、北浦、三川内、上南方、日知屋、塩見、財光寺南、寺迫、椎葉、大河内、日向ひまわり支援学校
西臼杵：高千穂、田原、岩戸、宮水

食育活動研修会

Kenminkaigi
dayori

県内で食育講座等を開催している食育関係者のスキルアップを目的に、研修会を開催しました。

日時 令和7年1月17日(金) **会場** 県企業局庁舎1階 県電ホール

講師 「味覚の一週間」®実行委員会委員長 瀬古 篤子 氏

研修内容

1991年にフランスで始まった食育活動である「味覚の一週間」®を日本で開始した経緯や、日本で「味覚の授業」®を開始して以降の経緯、子どもへ食育を行う上で意識することなどを講演していただきました。

また、講演の中で、全国的にはシェフが講師となっていることが多い中、宮崎県では、生産者が講師となっていることが農業県ならではのあり、行政や関係団体等が地域一体となって取り組んでいる点について、評価いただきました。



講師：瀬古 篤子 氏



研修会の様子



Karada Good Miyazaki フェスタ 2024

「宮崎の食」への理解促進や県民の健康寿命の延伸等に寄与するため、「Karada Good Miyazaki フェスタ2024」を開催しました。

「食」と「健康」に加え、「環境」の大切さを見つめ直すきっかけとなるよう、各種ステージイベントや県産農畜産物の販売など盛りだくさんの内容で実施し、約3,000人の方が来場されました。

日時 令和6年11月3日(日) 場所 JA・AZM

主催 県民会議、宮崎県、公益財団法人宮崎県健康づくり協会

メインステージ・大ホール



食と農に関する講演会 講師：ロバート 馬場氏



笑顔つながる「みやざき弁当の日」写真展表彰



地産地消や健康づくり等の啓発

屋外イベント広場



県産農畜産物の試食販売等



地場産物活用食育研修会

地元食材を使った学校給食は、子どもたちに食文化を継承し郷土愛を育む大変重要な場となっているため、学校給食への地場産物のより一層の活用促進を目的に、学校給食関係者を対象に研修を行いました。

参加者からは、第1回研修では「実際に目で見て、体験して学べて良かった、今回の研修を子どもたちや職員にも伝えたい」、第2回研修では「プロのシェフに教えていただくことで、新しい味の発見や作り方を知ることができ、大変勉強になった」等の感想をいただきました。

日時 【第1回】令和6年8月1日(木)
【第2回】令和7年2月4日(火)
内容 【第1回】農業体験(綾・早川農苑)
加工場視察((株)綾・野菜加工館)
【第2回】調理実習(宮崎県学校給食会)
主催 県民会議、公益財団法人 宮崎県学校給食会

第1回

地場産物活用の促進に向け、栄養教諭を対象に地場産物の生産現場の視察や農業体験に加え、加工現場の視察を実施しました。



生産者との意見交換



農業体験



加工場視察

第2回

kokoya de kobayashi(小林市)オーナーシェフの地井潤氏考案の地場産物を活用した学校給食献立により、調理実習を行いました。



調理実習



試食



地産地消の拠点!! 農林水産物直売所の運営支援

県内の農林水産物直売所は、地産地消の拠点であるとともに、地域の経済循環活動の中心として重要な役割を果たしています。

県民会議では、専門家による研修会の開催と経営改善支援を通して、店舗運営の課題解決や魅力アップを後押しする活動を実施しました。

直売所アドバイザーによる店舗巡回

日時 令和6年10月、12月

アドバイザー (株)産直新聞社 代表取締役兼編集長
毛賀澤 明宏氏

支援店舗 県内直売所3店舗
(三股町物産館よかもんや、木城町農産物販売所菜っ葉屋、道の駅酒谷)



レジデータの活用方法等、各店舗の課題に応じたアドバイスを実施



宮崎県農林水産物直売所交流研修会2025

アドバイザーの毛賀澤氏による県内直売所への問題提起や、今年度支援を実施した三股町物産館よかもんや、木城町農産物販売所菜っ葉屋、道の駅酒谷による取組報告が行われました。また、JA宮崎中央会から、JA直売所の取り組みについて紹介していただきました。

日時 令和7年2月13日(木)

場所 県庁企業局庁舎1階 県電ホール



アドバイザーによる問題提起や直売所の取組報告を実施



みやざきの 「食」と「農」を楽しむ体験講座

県立農業大学校農業総合研修センターと連携し、一般県民が参加しやすい農業・食育の体験型講座等を実施しました。

年間を通じて、若い世代を中心にみやざきの食と農の魅力や大切さを啓発しました。

農業体験



カボチャの作付け体験を実施

食育・地産地消料理講習会



県産農畜産物を使用した料理教室を実施



大学生による 「Karada Goodプロジェクト」

宮崎県立看護大学と連携し、若年層を対象に「みやざきの食の魅力」を理解することや食品ロス削減の啓発を目的として、野菜ブーケづくり等のセミナーを開催しました。



野菜ソムリエの坂東淳子氏を講師に野菜ブーケづくりセミナーを開催

企業と連携した食品ロス削減活動

食品ロスの削減を目的として、食品小売業者等との連携により、県民の「もったいない」の実践を推進し、食品ロス削減に対する意識向上に向けた取組を実施しました。

「てまえどり」の推進

県内のコンビニ・スーパー7社と連携し、10月の食品ロス削減月間にあわせて、てまえどり啓発POP等資材を作成し、各店舗で掲示しました。

掲示店 (株)セブン-イレブン・ジャパン、(株)南九州ファミリーマート
(株)ローソン、(株)エコープみやざき、(株)ハットリー、(株)まつの、(株)山形屋ストア



啓発資材掲示の様子



「てまえどり」啓発POP

『みやざき「食」のもったいないキャンペーン』の実施

県内スーパー5社と連携し、消費・賞味期限の近い食品に貼られたシールを集めて応募すると、抽選で県産品が当たるキャンペーンを実施しました。

日時 令和6年9月21日から10月31日まで

実施店 (株)エコープみやざき
生活協同組合コープみやざき
(株)ハットリー (Foodaly他)
(株)まつの
(株)山形屋ストア

応募数 6,436通

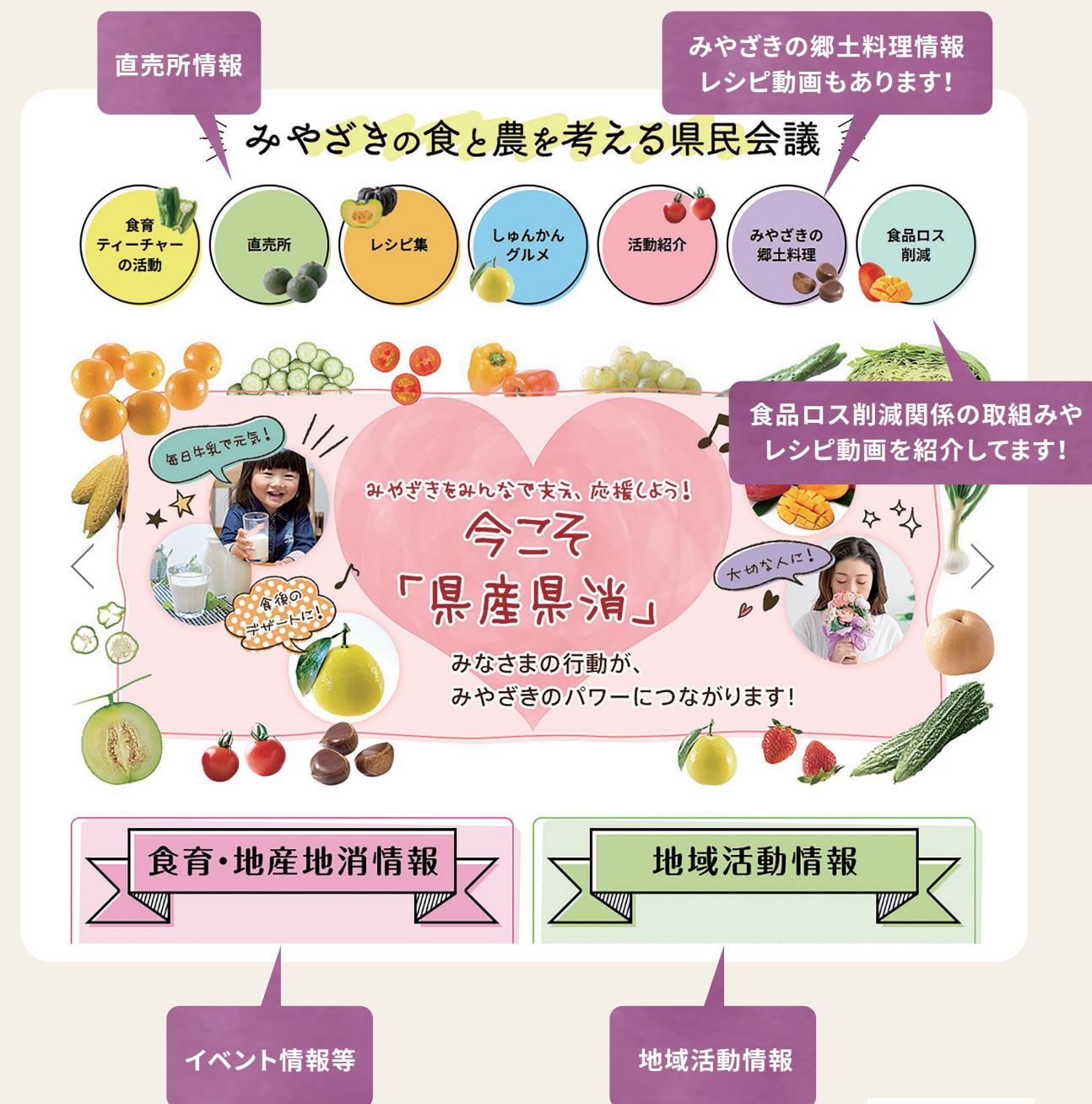


食育・地産地消活動のPR

6月の「食育月間」及び11月の「地産地消推進月間」、毎月16日の「ひむか地産地消の日」等の期間に、重点的に食育・地産地消を進めています。

また、県民会議ホームページや県庁舎における懸垂幕の掲出等のPRを行っています。

県民会議ホームページによる情報発信



是非チェックしてください! →



みやざきの食と農を考える県民会議会員

102団体・17個人

令和7年3月末現在（順不同）

行政【33団体】

宮崎県知事
（宮崎県農政水産部）
（宮崎県福祉保健部）
宮崎県教育委員会
宮崎県議会環境農林水産常任委員会
宮崎県市長会
宮崎県町村会
宮崎県市議会議長会
宮崎県町村議会議長会
宮崎市
都城市
延岡市
日南市
小林市
日向市
串間市
西都市
えびの市
三股町
高原町
国富町
綾町
高鍋町
新富町
西米良村
木城町
川南町
都農町
門川町
美郷町
諸塚村
椎葉村
高千穂町
日之影町
五ヶ瀬町

消費者団体【2団体】

生活協同組合コープみやざき
宮崎県地域婦人連絡協議会

教育関係団体【3団体】

宮崎県PTA連合会
宮崎県校長会
（公財）宮崎県学校給食会

商工業団体【3団体】

宮崎県商工会議所連合会
宮崎県商工会連合会
宮崎県中小企業団体中央会

生活衛生同業組合等【3団体】

宮崎県ホテル旅館生活衛生同業組合
宮崎県飲食業生活衛生同業組合
宮崎県すし商生活衛生同業組合

観光・ホテル関係団体【3団体】

（公財）宮崎県観光協会
宮崎協定旅館連盟協議会
宮崎若女将倶楽部

調理師関係者団体【2団体】

宮崎調理士会
（一社）全日本司厨士協会西日本地方宮崎県本部

郷土料理店【1団体】

ふるさと料理 杉の子

栄養士関係団体【2団体】

（公社）宮崎県栄養士会
宮崎県学校栄養士会

生活改善関係団体【1団体】

宮崎県食生活改善推進協議会

福祉関係団体【1団体】

（公財）宮崎県健康づくり協会

食品加工関係団体【11団体】

宮崎県食品産業協議会
宮崎県農協果汁（株）
（株）ミヤチク
宮崎県仕出弁当協会
宮崎県漬物協同組合
宮崎県食肉消費対策協議会
（株）水永水産
（有）白水舎乳業
（株）虎屋
中西牧場（ミルククラブ）
好日庵

流通・販売関係団体【8団体】

（公社）宮崎県物産貿易振興センター
（株）エーコープみやざき
（株）マルショク宮崎支店
（株）宮崎山形屋
（株）セブンーイレブン・ジャパン
（株）エムツー
（株）ハットリー
宮崎空港ビル（株）

農林漁業団体等【8団体】

JA宮崎県女性組織協議会
宮崎県SAP会議連合
宮崎県農業協同組合
宮崎県漁業協同組合連合会
宮崎県漁協青壮年部連絡協議会
宮崎県漁協女性部連絡協議会
宮崎県森林組合連合会
農林中央金庫宮崎支店

生産者代表【15名個人】

宮崎県農協青年組織協議会（委員長1名）
宮崎県農協青年組織協議会（副委員長3名）
宮崎県農協青年組織協議会（委員11名）

市場連合会【1団体】

宮崎県青果市場連合会

学識経験者【2名】

国立大学法人宮崎大学地域資源創成学部
宮崎スポーツ栄養協会

報道関係【12団体】

朝日新聞社
毎日新聞社
読売新聞社
西日本新聞社
日本経済新聞社 宮崎支局
南日本新聞社 宮崎支局
宮崎日日新聞社
共同通信社
時事通信社
NHK宮崎放送局
MRT宮崎放送
UMKテレビ宮崎

その他【8団体】

九州電力（株）宮崎
（有）鉱脈社
日本航空株式会社 宮崎支店
キリンビールマーケティング（株）宮崎支社
（株）アイロード
m20
公益財団法人 宮崎県産業振興機構
IKUMI〜育味〜

県民運動推進のPRキャラクター

名前
旬（しゅん）



宮崎の明るい太陽を擬人化して、海をデザイン化。県民が県産の農林水産物を楽しくおいしそうに食べている様子を表現しています。

県内でとれた農林水産物は、ひととき新鮮であり、季節の物がいつでもすぐ食べられることから、その名前が付けられました。

「いただきます」からはじめよう宣言

最近、あなたは「いただきます」を言いましたか？

子どもたちには教えているけれど、あなたは今日「いただきます」と手を合わせましたか？

この言葉が、暮らしの中から少し遠くなりました。

それと同時に、私たちの食生活から「本当の豊かさ」が消えていきました。

畑が工場になり、農産物が商品になり、食卓から季節と家族団らんの会話が消え、

子どもたちは、野菜の本当の色も、香りも、手触りも覚えていません。

食べ物が遠くの見知らぬところから運ばれるようになってから、

生産者の汗や土のにおいも食卓に届くことはなくなりました。

すべての野菜や畜産物は、自然から生まれた「いのちの恵み」です。

生産者も、消費者もこの「いのちの恵み」を食べて生きています。生かされています。

このことが、「食」と「農」の原点であることを、私たちはもう一度

自分たちの「自然な感覚」として取り戻す必要があると思いませんか。

でもそれは難しいことはありません。当たり前のことをやればいいのです。

身近にあるものをおいしくいただく。身近にある食材を生かした料理を選ぶ。

畑の土に触れ、遊び、語り合い、

そして食事の時には生産者も消費者も

「いのちの恵み」にそっと手を合わせ、感謝の心を伝えればいいのです。

それが「いただきます」。私たちのこれからの食生活を豊かにする言葉です。

私たち宮崎県民は、この「いただきます」という言葉で食卓を満たし、

私たちの食生活を豊かにする運動を今日から始めます。

宮崎から響け、「いただきます」の声

宮崎からはじめよう、

いのちの恵みへの「ありがとう」

